

日本海に遊ぶ

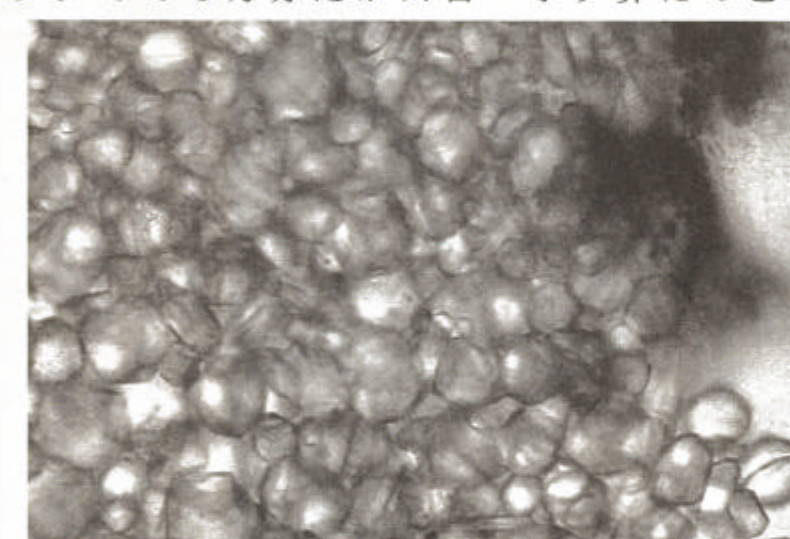
京都大学水産実験所職員
上野 正博

クラゲの骨

目もなく、ふわふわと海を漂ってただけと
思われがちですが、実は骨も目もあるのです。
ミズクラゲの傘の注意深く見ると、浅いくぼくぼくクラゲが入ってこない
利用して、海水浴場に一杯流れ込んで困っている定置網や発電所でも利用できそうですね。

一方、クラゲの耳は平衡細胞と呼ばれる小さな袋です。人間の耳は音を聞くだけではなく、体の釣り合い(平衡)を保つための大切な感覚器官。耳の病気になるためまいがしたり、まっすぐ立っていられないのはこのためです。

先日、実験所でクラゲのミニシンポジウムが開かれました。講師は日本のクラゲ研究の草分けである元福井県水産試験場のYさん、下関にある水産大学校のUさん、それに実験所のMさん。Mさんはここ数年、ミズクラゲがアジやサバの稚魚を食べるのでアジやサバが増えないのではと、いろんな実験をしています。若いMさんの研究を盛り立てようと大先生がたが登場という次第。



栗おこしのようなミズクラゲの骨

原始的な耳であるクラゲの平衡細胞には、硫酸カルシウムでできた小さな骨片(平衡石)が入っています。平衡細胞の内側には毛がたくさん生えていて、体が傾くと傾いた方の毛に平衡石が当たるので分かる仕掛けです。音の振動も平衡石が震えるのをこの毛で感知するのです。体を支える骨に比べるとちっぽけな物ですが、クラゲの骨は体の平衡感覚と音を感じ取る大切な働きをしています。クラゲの骨は人の耳のご先祖様といえるかもしれません。